

大豆の病害虫防除

1. 大豆各種害虫の防除

本年の大豆は、高温及び少雨の影響を受け生育が平年より進んでいます。5月中旬は種のは場ではすでに莢伸長が見えており、マメシンクイガ 1 回目の防除時期を迎えようとしています。

マメシンクイガ ◆8月上旬～中旬の薬剤防除がポイント

＜発生状況＞

- ・幼虫が莢に侵入し、子実を食害します。
- ・始めは未熟粒に針状の小さな穴を作る程度ですが、生長すると子実の縫合部に沿って溝状に半周または全周にわたって食害し、子実がえぐられるような食痕（口欠け粒）となります。

＜耕種的防除＞

- ・大豆畑で越冬するため連作を避けます。

＜薬剤防除＞

- ・成虫及び莢伸長始の両方が確認されてから 6 日後とその 10 日後に防除を実施しましょう。
- ・効果を高めるためには、莢に十分薬剤が付着することが重要です。

ツメクサガその他食葉性りん翅目幼虫

種類により差はありますが、7 月上旬頃より食害が見られます。

開花始頃（7月下旬）から子実肥大期（9月上旬）までの食害に注意しましょう。

2. 防除薬剤

害虫防除

害虫名	薬剤名と使用方法			
マメシンクイガ	成虫及び莢伸長始の両方が確認されてから6日後とその10日後に防除を実施する。			
	・ゲットアウトWDG（合成ピレスロイド）	3,000倍	7日前	3回
	・パイオフME液剤（合成ピレスロイド）	2,000倍	7日前	3回
	・プレバソンフロアブル（ジアミド）	4,000倍	7日前	2回
ツメクサガ	7月上旬～下旬と8月中旬～9月上旬の2回発生する。（必要に応じて）			
	・トクチオン乳剤	1,000倍	30日前	3回
ハダニ類	同一薬剤の連用を避ける。（発生が観察された場合）			
	・ダニトロン	1,000～2,000倍	7日前	1回
	・コロマイト乳剤	1,500倍	7日前	2回

※「平成31年度農作物病害虫防除・除草剤使用ガイド」に従い使用してください。